

日高高等学校  
同窓会報

発行  
和歌山県立  
日高高等学校同窓会

和歌山県御坊市島45番地  
日高高等学校内  
翔栄館（同窓会館）  
TEL 0738-20-1353  
FAX 0738-20-1353

# 会長挨拶



## 阪本 仁志

令和五年度より和歌山県立日高高等学校同窓会の会長を拝命しております。昭和四十九年卒業の現在六十九歳です。在学中はソフトテニス部に所属しておりました。高校生活は長い人生の中の一つの貴重な時間ですが、私にとっては貴重な時間でした。今振り返れば苦しいこともあったのですが、楽しい思い出しか残っておりません。もとより浅学非才の身ですが、「日高高校愛」だけは持つております。母校の発展のために頑張りますのでご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

日高高校前身の日高高等女学校創立が一九一四年ですから、今年本校は創立一一一年を迎える歴史ある伝統校です。中津分校・定時制高校をあわせて卒業生実に二九〇〇〇人が日本各地で、いや世界中で活躍されています。ところが同窓会組織は伝統校の割にお粗末だったのを、創立一〇〇周年を期に先輩方が苦勞して同窓会を組織化していただきました。結果現在では、関東地方在住の方による「関東同窓会」と関西在住の方による「関西同窓会」、それと我々の本部同窓会と三つの組織がそれぞれ独立心を持って活動して頂いております。また最近ではwebでつなぐ「日高広域同窓会」も活動しております。

まだまだ十分ではありませんが、同窓生相互の親睦を楽しくはかりながら、母校や在校生のために少しでも支援していきける組織になるように活動していきますので、会員皆様方のご協力ご支援をよろしくお願い申し上げます。

# 校長挨拶



和歌山県立日高高等学校・附属中学校  
校長 坂口 雅紀

令和七年四月に県立日高高等学校、同附属中学校の校長に着任いたしました坂口雅紀です。よろしくお願ひ申し上げます。

同窓会の皆様方におかれましては、平素より本校の教育活動に対し御支援・御協力をいただき、誠にありがとうございます。教職員一同、厚く御礼を申し上げます。

現在、中学高校を合わせて七七〇名ほどの生徒数があり、生徒たちは、先輩方が築かれた伝統を受け継ぎ、文武両道をモットーに日々、勉強やスポーツに励んでいます。

かねてより力を入れ取り組んでいる国際交流事業につきましては、五月に台湾からの台湾高級弘文中学訪問団を受け入れ、授業体験、昼食交流会、歓迎会などの行事を実施し、生徒同士の交流を深めました。今後三月には、姉妹校であるデンマークのフレデリクスハウズン高校へ十名の生徒が訪問する予定になっています。また、部活動におきましては、運動部で弓道部、文化部では美術部が、定時制においてもバドミントン競技、卓球競技で全国大会出場を果たし成果を上げています。出場に際しまして、同窓会から御支援をいただき、誠にありがとうございます。その他にも、多数の部が近畿大会出場を果たしています。次に毎年、御支援をいただき実施している「日高未来塾講演会」では、十二月五日に東北大学シニア研究員の川島秀一先生を講師にお招きし、「海と紀州の人びと」をテーマに御講演いただきました。そして、昭和二十九年卒業生の岩本よね子様より昨年度に続き御支援をいただき、生徒たちの学びに役立てたいと考えております。

このようにお力添えをいただきながら大変貴重な経験ができることは、生徒や学校にとりまして大きな喜びであり、同窓会の皆様方に深く感謝申し上げます。

最後に、今年創立百十一年目を迎えた日高高等学校が、今後も充実した活動を展開し、伝統を未来に繋いでいけるよう、引き続き、皆様方の御支援、御協力をお願いいたします。

日高未来塾

東北大の川島さん講演



に直行するのではなく、寄り道をしながら各地の人々と交流を広げていたことも紹介し、「皆さんも昔の漁師のように、急がず、回り道をし、ときには間違いながらも進んでください」とメッセージを送りました。

日高高校と附属中学校、同窓会、双成会は十二月五日、体育館で日高未来塾講演会を開き、東北大学災害科学研究所シニア研究員、川島秀一さんが「海と紀州の人びと」をテーマに紀州漁民の旅漁について講演しました。

川島さんは鯉節製法を各地に伝えた印南漁民、三陸と紀伊とのつながりなど多様な旅漁の歴史を紹介。その上で「伝承地に定着したのは、受け入れる側の地域基盤と、紀州漁民の社会的・文化的適応能力が優れていたため」と説明しました。

かつての漁師たちは目的地



同窓会活動報告

全国大会出場選手を激励



七月十六日、日高高校で全国大会に出場する全日制・定時制の体育・文化クラブの生徒たちを激励しました。

阪本会長は、「日頃の練習の成果を発揮してきて下さい」とエールを送り、激励金を手渡しました。全国高等学校総合文化祭美術・工

芸部門に参加する尾崎月灯さん（全日制3年）は「めったになんない経験なので、全国レベルの作品に触れて自分の成長につなげたい」、全国高等学校定時制通信制体育大会バドミントン競技に出場する前田耀太くん（定時制2年）と堀貴博くん（同1年）は「県代表として十分に力を発揮したい」、卓球競技に出場する大畑惺鈴さん（同3年）も「ほかの選手から多くを学びたい」とそれぞれ意気込みを語りました。

全国高校総体に出場する全日制弓道部は、別大会出場のため、この日は欠席でした。

※日高高校同窓会は、全国大会に出場するクラブ・選手に激励金を送っています。

同窓生の活躍

三原涼雅さん  
箱根駅伝に出場

日高高校同窓会員の三原涼雅選手（神奈川県立三原高等学校三年）は、正月恒例の東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）に二年連続で神奈川県大学の第五区往路アンカーとして、二年連続出場されました。

三浦選手から

◎今年の抱負：

春には四年生、箱根駅伝は年頭にて、来年が大学駅伝最後の機会になります。これまでの道程に後悔のないよう、これからへ研鑽を積んでいきます。

◎後輩の皆さんへ

これから先、自分が目指すことへ自信を持ち、常に前向きに挑むことを忘れずにいてください。



第7回 関西同窓会開催



開会のご挨拶

会長 玉井 璋

今年も、和歌山市の「ホテル・アバローム紀の国」にて、第八回関西同窓会の総会・懇親会を開催する運びとなりました。時節柄なにかと慌ただしいなかを、四十数名の方々のご参加をいただき、まことにありがとうございます。理事会の委員を代表して、篤くお礼を申し上げます。

関西同窓会の創立は、同窓会本部の前会長の故津村尚志様と、同窓会本部常任理事の山下真玄様が、「定年退職した人達が母校を偲び、同窓生と懇談する場を関西に造ってはどうか」と、私たちに提案されたのが最初と記憶しております。その意味で、関西同窓会は、発足当初から高齢者の集まりであり、第一回総会開催からすでに十年以上が経っています。しかしこの間に、高齢化に拍車がかかり、世の中が定年延長の傾向になり、また、

新型コロナウイルスの流行により人が集まるのが規制されたこともあって、私たちの同窓会は、その運営には大変厳しい状況が続いております。

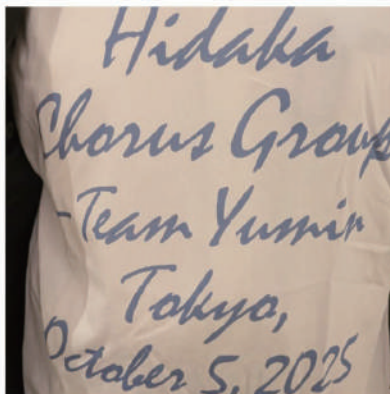
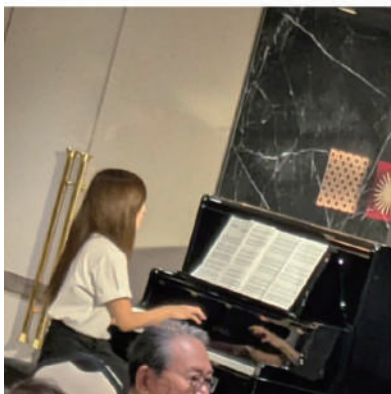
関西同窓会は、参加人数が減少傾向にあるとは言え、少人数であっても元気活発な集団として、活動を続けていきたいと願っております。そのためには皆様の支えが一番ですので、どうかご健康でご長寿を保たれ、この関西同窓会にご参加いただることを念願いたしております。最後になりましたが、関西同窓会の「育ての親」であります山下真玄様は、今年の五月にご逝去されました。本日の関西同窓会の総会・懇親会を始めるに先立ち、感謝の気持ちをこめ、ご冥福を祈りまして、黙祷を捧げたいと存じます。

黙祷：。  
ありがとうございました。



# 第12回関東同窓会開催

←当日着用した  
オリジナルTシャツ



令和七年十月五日(日)、第十二回関東同窓会が東京ガーデンパレスで開催されました。今年は昭和二十六年卒から平成二十七年卒までの関東在住卒業生七十二名が参加。参加者は昨年、一昨年よりも多く、更にはコロナ禍前の二〇一九年(第六回)を上回る人数となりました。

総会において、役員の変更、活動報告・計画、会計報告が行われた後、元日高高校教諭・合唱部顧問で本校出身の満澤由美氏(関東在住)の指揮により、今年三月に発足した『日高高校OB・OG合唱団関東チーム』十二名による迫力ある合唱の演奏が披露されました。

今年も、同窓会本部より中村久美子副会長と森裕子理事、関西同窓会より玉井暲会長をお招きし、ご祝辞をいただきました。その後、昭和二十七年卒



の村口勝哉氏による乾杯のご発声の後、懇親会に移り、世代を超えて旧交を温め合い、楽しいひとときを過ごすことができました。

今年も元自民党幹事長の二階俊博先生が二年振りに出席、関東同窓会の更なる発展を祈念するご挨拶をいただきました。懇親会の終盤には、出席した卒業生全員による校歌斉唱で盛り上がり、来年の再開を誓い閉会しました。

# 昭和53年度卒業生同窓会

令和七年五月三日のゴールデンウィークに、花ご坊にて昭和五十三年度卒業生の三回目の学年同窓会を約十年ぶりに開催しました。

当初六十歳の還暦の正月に開催を予定していましたが、コロナ禍のため、この五年間延期か開催の判断に悩んできました。

今回初めて正月以外で開催を決定しましたが、はたしてゴールデンウィーク中にどれだけ参加していただけるか不安でした。結果は、前回の正月開催とほぼ変わりない一一六名（恩師二名・生徒一一四名）のご参加をいただき喜んでおります。

幹事会で用意したのは二次会まででしたが、久しぶりの同級生と遅くまで（お昼の十二時から始まった同



窓会を二次会、三次会と重ねて日付を跨いだ午前二時まで）飲み歩いた強者もおられたようです。

過去三回の同窓会を開催してきた現幹事会は、今回をもつて解散となるため同窓会の残金は、本部同窓会へ寄付することを今回の同窓会で決定しましたので、寄付させて頂きます。

# 日高高校昭和59年卒

## 還暦同窓会を開催

令和七年十一月二日、日高高校昭和五十九年卒業生が御坊市内の「花ご坊」に集い、還暦同窓会が開かれました。当日は一九九人が顔をそろえ、会場は再会を喜ぶ笑顔でいっぱい。

開会に先立ち、物故者への黙祷をささげ、在りし日へ思いを寄せました。続いて、幹事代表の塩路秀喜さんと藤村知恵美さんが「昔を懐かしみ、旧交を温め、素敵なひと時を過ごしてください」とあいさつ。その優しい言葉に、場の空気もふわりと和らいでいきました。歓談の時間になると、学生時代のエピソードや、仕事・家庭での近況があちこちから聞こえてきます。テーブルごとに笑い声が広がり、時間が経つのも忘れるほどのにぎやかさでした。この日のために用意された記念タオルは、鮮やかな赤色に「RE START」の文字。校舎のシルエットが描かれたデザインで、60歳は通過点。ここか



らまた歩き出そう」というメッセージが込められています。タオルを広げて写真に写ったり、鉢巻きにしたりと、どの場面にも明るい笑顔が並びました。

後半は、代表四人による近況報告へ。家族のこと、健康のこと、仕事のこと―それぞれの言葉に、あたたかい拍手が送られます。続くビンゴゲームでは、番号が呼ばれるたびに歓声と笑い声が重なり、楽しいひと時となりました。校歌斉唱では、藤村知恵美さんのピアノに合わせ、全員で声を合わせます。懐かしい旋律が響き、青春の日々がすつとよみがえるようでした。

最後に、次回幹事として田殿浩司さんと新井あけみさんが紹介され、「二〇三〇年も元気に集まろう」と全員で約束。締めくくりは二階俊樹さんの一本締めで、名残惜しさを残しながらも、明るい空気のままお開きとなりました。

二階 俊樹



日高高校昭和59年卒業生同窓会 作成した記念タオル (右下)

日高高校同窓会役員

役職名	氏名	卒業年
会長	阪本 仁志	昭和49年高26回
副会長	西田 光作	昭和50年高27回
副会長	中村 久美子	昭和54年高31回
副会長	中井 みゆき	昭和58年高35回
副会長	小竹 伸和	昭和62年高39回
常任理事	宇戸 博一	昭和55年高32回



## ご寄付のお願い

平素は、日高高校ならびに同窓会の活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼を申し上げます。

さて、本校同窓会では、母校の教育環境の充実および在校生支援、同窓会活動の円滑な運営を目的として、諸活動を行っております。特に在校生に対して、地方にいても本物の文化に触れる機会を作るお手伝いなどに協力させていただいております。しかしながら、近年は諸経費の値上がりにより、運営費の確保が年々厳しくなっており、同窓会活動と発展のため、皆様からのご支援をお願い申し上げる次第です。

つきましては誠に恐縮ではございますが、一口1,000円として何口でも結構ですから、母校のためにご協力をお願い申し上げます。今後とも母校ならびに同窓会の発展のため、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

**送金先：郵便払込 00910-1-284835 (和歌山県立日高高等学校同窓会)**

### 事務局員新任の挨拶

津村 弥生

同窓生の皆様、はじめまして。津村弥生と申します。以前に日高高校のPTA(一般社団法人双成会)の事務員をしておりました。

出身は北海道札幌市で、出身高校も札幌なのですが、家族や親戚の多くが日高高校にお世話になりましたので、日高高校とはとてもご縁があり、こちらの同窓会組織の一員になりましたことを嬉しく思っております。

入職して三か月、久しぶりの校内は、以前と変わらずエネルギーに満ち溢れ、在校生の笑い声や、部活動の音楽が響き渡っています。同窓会本部や、関西、関東同窓会の皆様それぞれが、とても活発に活動されていて、私も元気をいただいております。

事務局には週に一度、水曜日の勤務で、他にもお仕事をしていますので、ご不便をお掛けしますが、同窓生の皆様の交流や、学校・地域のご発展のお力になれますよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。